

令和元年度東京都硫黄島戦没者追悼式 議長追悼の辞（令和二年一月十六日）

本日ここに、ご遺族(いぞく)をはじめ、関係者の皆様、多数ご参列のもと、令和元年度 東京都 硫黄(いおう)島(とう) 戦没者 追悼(ついつう)式が執(と)り行われるにあたり、東京都議会を代表して、謹(つつし)んで追悼の言葉を捧(ささ)げます。

先の大戦が終わりを告げ、今年で七十五年目を迎えます。

東京から遥(はる)か南方に位置する、ここ 硫黄(いおう)島(とう)では、水や食料が不足する過酷な環境の下で、苛烈(かれつ)を極めた戦闘が繰り広げられ、二万人を超える同胞の尊(とん)い命が失われました。

灼熱(しゃくねつ)の地下壕(ごう)で、飢えと渴(かわ)きに耐えながら、祖国の安寧(あんねい)と家族の平安を祈り続け、無残にも犠牲になられた方々の無念、そして、最愛の肉親を失われたご遺族(いぞく)の深い悲しみに思いをいたすとき、今なお 万感(ばんかん)胸に迫(せま)り、誠に痛惜(つうせき)の念に堪えません。

時代が移り変わり、戦争を直接知らない世代が国民の多数を占めるようになりましたが、今日(こんにち)、私たちが当然のように享受(きょうじゆ)している平和と繁栄は、戦没者の方々の尊(とん)い犠牲と、ご遺族の皆様のご労苦の上に築かれたものであることを、決して忘れてはなりません。

戦争の惨禍(さんか)を決して繰り返さぬよう、私たちは、歴史と謙虚(けんきょ)に向き合いながら、これからも、全ての人々が平和に暮らせる社会の実現に向けて、不断の努力を重ねていくことを、改めて、お誓い申し上げます。

結びに、ここに尊(とうと)い命を捧(ささ)げられた御霊(みたま)の安(やす)らかならんこと、ご遺族の皆様のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、追悼の言葉といたします。

令和二年一月十六日

東京都議会議長 石川 良一